共通価値の創造　日本での取り組み

制作：ネスレ日本株式会社 マーケティング＆コミュニケーションズ本部　2021年6月

CEOメッセージ

私たちはGood food, Good lifeカンパニー、ネスレです。

Good food, Good life、それはすなわち良い企業活動を意味します。Goodとは自らを高い水準に保ち、そして常により良くなろうと努めることです。社会、ビジネス環境をはじめ、すべてがかつてないスピードで進化する今、私たちは、お客さまやペット、そして社会に対して高品質で安全な食品・飲料の提供をするという重要な役割と責任を担い、美味しく、心にも体にも嬉しい、そして使いやすく、環境にも配慮された製品やサービスを確実にお届けできるよう引き続き努めております。

これからもネスレ日本はGood food, Good lifeカンパニーとして、食品、飲料、栄養健康製品、ペットケア製品、そして付加価値の高いサービスで実現できるイノベーションを探究することで、食の持つ力で現在、そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます。

ネスレ日本株式会社
代表取締役社長兼CEO
深谷　龍彦

ネスレは、食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます

ネスレの存在意義は、「食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます」です。ネスレはこの存在意義に動機付けられて、現在そしてこれからの人々やペットの生活、そして環境に対して、プラスの影響を与えるべく取り組んでいます。

個人と家族のために
さらに健康で幸せな生活を実現します

「コーヒーを1日3杯以上飲んでいる人は、身体的、精神的、社会的に健康である」という考えに基づき、「3 Coffee a Day(1日3杯のコーヒーによる健康習慣の推奨)」の啓発活動を行っています。

健康的なコーヒー飲用習慣の推奨

コミュニティのために
困難に負けない活力あるコミュニティを育成します

多くの方が不安を抱えられる中、チョコレートやコーヒーで少しでもほっとひと息ついていただけるようさまざまな形での支援を行っています。

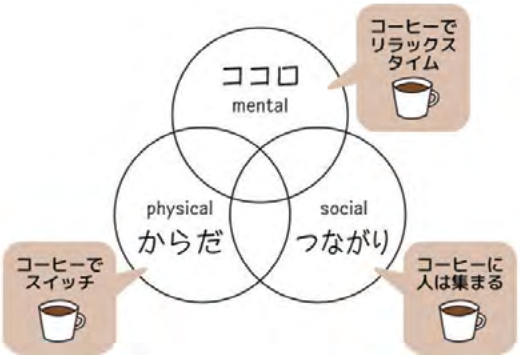
製品を通じた支援

地球のために
未来の地球のために資源と環境を守ります

ネスレは、2025年までに、ネスレ製品のパッケージを100%リサイクル(再生利用)あるいはリユース(再使用)可能にするというコミットメントを打ち立てました。

「キットカット」紙パッケージ

健康的なコーヒー飲用習慣の推奨



日本人にとって最大のポリフェノール源であるコーヒー。「1日3杯以上飲んでいる人は、身体的、精神的、社会的に健康である」という考えに基づき、「3 Coffee a Day(1日3杯のコーヒーによる健康習慣の推奨)」の啓発活動を行っています。
リモートワークなど新しい働き方を選択する機会が増えた昨年は、[コーヒーとGood Lifeに関する調査 2020]を実施し、仕事中のパフォーマンスを応援するコーヒーの飲用方法を提案しました。

また、社会的に大きな問題となっている日本人の睡眠不足に注目し、カフェインを含むコーヒーとカフェインレスコーヒーの飲み分けを通じて新しい睡眠スタイルを提案する体験型カフェ「ネスカフェ 睡眠カフェ」を運営しています。加えて、午後のパフォーマンスを考え、カフェインの入ったコーヒーを飲んでから短い昼寝をする「コーヒーナップ」も提案しています。

ネスカフェ アンバサダー

「ネスカフェ アンバサダー」プログラムは、職場やコミュニティに「ネスカフェ」のコーヒーマシンを無料で貸し出し、専用のコーヒーカートリッジの定期購入と代金回収は「ネスカフェアンバサダー」と呼ばれる職場の代表者に協力していただくサービスです。一杯のコーヒーを起点に会話や笑顔を広げる“オフィス内コミュニケーションの活性化”といったベネフィットが受け入れられ、応募者は49万人（2021年3月時点）を突破しました。

介護予防カフェ

2013年、兵庫県神戸市とネスレ日本は、「こうべ元気! いきいき!! プロジェクト」の連携協定を締結しました。栄養や健康に関するノウハウを活かし、高齢者の生活の質の向上に貢献しています。取り組みの一つである「介護予防カフェ」にコーヒーマシン「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」などを提供し、「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場づくりを応援しています。すでに神戸市内の81か所（2021年3月時点）で立ち上がり、地域コミュニティの活性化に貢献しています。

「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場「介護予防カフェ」（写真:2019年撮影）

健康的な選択肢の提供

ネスレ ヘルスサイエンスは、日本では30年以上の歴史がある「アイソカル」をはじめとした栄養補助食品を全国1万軒以上の医療機関・介護施設の現場にお届けしています。少量高カロリーのコンパクト栄養食「アイソカル 100」や「アイソカルゼリー ハイカロリー」は、食事量が気になる時や飲み込みが気になる時などにも栄養を手軽に補給できるため、高齢者の健康維持に役立てられています。

2020年9月には、65歳以上のための栄養アセスメントアプリ「MNA プラス」の提供を開始しました。

自宅で栄養状態を簡単にチェックでき、栄養管理や健康維持のためのアドバイスを受けられるアプリです。

また、子どもだけでなく大人にとっても大切な栄養素が美味しく摂れる「ミロ」や、2020年12月に発売した“スーパーフード”を美味しく手軽に摂っていただくことができる「nesQino（ネスキーノ）」をお届けしています。

ネスレ ヘルシーキッズ

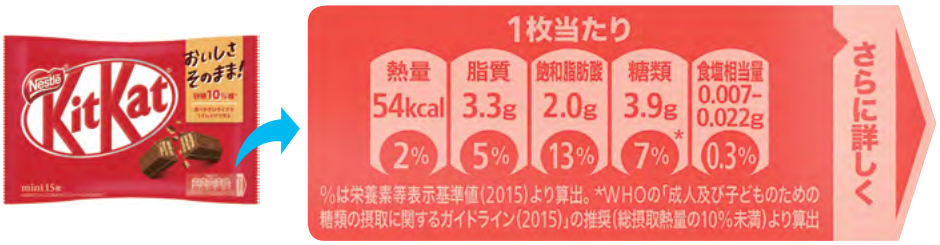
幼い頃に、栄養・健康・ウェルネスに関する知識と実践する力を身につけることは、生涯を通じた財産となります。ネスレがグローバルで推進する旗艦イニシアチブ「ネスレ ヘルシーキッズ」は、胎児期から青年期の重要な時期に、親や保護者を啓発し、支援することを目指しています。ネスレ日本では、2018年から従来の食育・運動プログラムを子どもだけでなく、保護者や高齢者にも拡大し、地域コミュニティの活性化を目指して地方自治体や子ども食堂などの団体と取り組んでいます。

2019年には、神戸を本拠とする女子サッカークラブ「INAC神戸レオネッサ」のエデュケーショナルパートナーとなり、神戸市在住の小学生とその保護者を主な対象として、両社で「栄養」と「運動」についての学びの機会を広く提供する活動を始めました。

2021年1月、INAC神戸の選手が「ネスレ ヘルシーキッズ」の講師役となったオンライン紙芝居の動画を制作し、全国の小学校を対象に提供する取り組みを開始しました。(写真:2020年11月撮影)

製品パッケージ上の栄養表示

健康的な食生活に役立つ情報を提供し、製品に対する理解を深めてもらうために、ネスレでは製品パッケージ表面で1食分当たりのエネルギー、脂質、飽和脂肪酸、糖類や食塩の量と、それらが1日の目安に対して占める割合(%)をアイコン化し、わかりやすく表示しています。さらにパッケージ裏面の「ネスレ ニュートリショナルコンパス」の栄養成分表示と連動し、詳しい栄養情報をガイドします。



栄養ガイド表示(カロリーガイド表示):栄養素の1食分当たりの量とそれが摂取目安に対して占める割合(%)をアイコン化し、わかりやすく表示しています。

製品を通じた支援

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で多くの方が不安を抱えられる中、チョコレートやコーヒーで少しでもほっとひと息ついていただけるようさまざまな形での支援を行っています。
2020年5月には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた方々を支援するために、「キットカット」や「ネスカフェ」を日本赤十字社や認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ、各地の自治体等へ寄贈しました。その後も全国のフードバンクや医療機関などを対象に、自社製品の寄贈を継続しています。
また、日本各地を訪れる観光客数が減少している状況を踏まえて、商品の購入を通じて日本全国の観光地域を応援できる寄付金付きの「ご当地キットカット」を発売しました。1商品あたり10円の寄付金が商品価格に含まれており、その寄付金は日本観光振興協会のネットワークを通じ、全国の観光地域の活動を支援するために活用されています。

新たな働き方の推進

以前から導入を進めていたリモートワーク制度を活用し、自宅から勤務できる従業員を対象に在宅勤務をさらに推進しました。また、社員の健康と安全を第一に考え、従業員へのマスクの配布や職場における感染予防対策の実施、工場やコールセンターなど出勤が必要な従業員への感謝の気持ちを届けるメッセージなどを社内SNSで発信しました。

また、ネスレ ヘルスサイエンスでは、医療・介護従事者の方へ安心・安全に製品や製品情報をお届けするために、インサイドセールス部を新たに立上げ、オフィスへの出社や医療・介護従事者への直接訪問をしなくても、さまざまなデジタルツールとオンラインでスムーズな情報提供ができる体制をいち早く整えました。

沖縄コーヒープロジェクト

これまでに約6,000本のコーヒーの苗木が移植されており(2021年5月現在)、当プロジェクトによって初めてコーヒー豆が収穫される時期は最短で2022年末以降を予定しています。

2019年、ネスレ日本と沖縄SV株式会社は、沖縄県名護市、琉球大学と連携し、沖縄で初となる大規模な国産コーヒーの栽培を目指す「沖縄コーヒープロジェクト」を開始しました。
沖縄県内の耕作放棄地などを活用し、沖縄を拠点とする国産コーヒー豆の栽培を本格的に開始することで、沖縄県の一次産業における問題解決を目指しています。
世界中のコーヒー生豆のサプライチェーンを継続的に改善することを目的としたプログラム「ネスカフェ プラン」に取り組むネスレは、コーヒーを栽培する上での技術支援・コーヒーの種子の提供などを行っています。

また2021年1月からは、沖縄県立北部農林高等学校 熱帯農業科の授業・実習の一環としてコーヒーの苗木を高校の農場に移植・育成する取り組みを開始しています。

ネコのバス

ネスレ ピュリナ ペットケアは、保護された猫(保護猫)のためにバス車両を全面的に改装した「ネコのバス」を活用して譲渡会を実施し、保護猫の啓発と譲渡促進に貢献しています。2018年4月に活動を開始してから、神戸、大阪、名古屋をはじめとする15以上の都市で保護猫の譲渡や啓発活動を行っています。
2020年11月には、バス車内での譲渡会の開催が困難な状況の中、名古屋市および公益社団法人 名古屋市獣医師会と連携し、「ネコのバス」を活用したオンライン形式の保護猫譲渡会を中心とする番組をライブで配信しました。
これからも人とペットが共生する社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

ダイバーシティ&インクルージョン・働きやすい職場

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織の方が新しい発想やイノベーションが生まれやすくなると考え、ネスレ日本はダイバーシティ&インクルージョン(多様性を認め、受け入れ、活かす)の推進に取り組んでいます。
2020年10月には、グローバル方針に準拠して、性別に関わらず養子縁組などで親となった社員全てが子育て支援を受けられる「ネスレ日本養育者支援方針」を導入しました。
また、2021年3月には、日本イーライリリー社と合同で3月8日の国際女性デーに合わせ、両社員向けに、女性をとりまくすべての人々の笑顔と活躍を応援するオンラインセッションを実施しました。

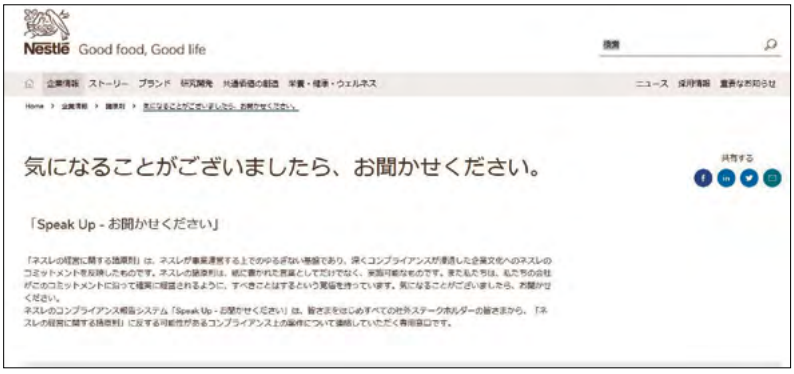
国際女性デー合同イベント 共同コラージュ

イノベーションアワード

少子高齢化が進む成熟先進国の日本で、日々刻々と変化していく問題を解決するためには、社員一人ひとりがイノベーションを通じて顧客に価値を提供しなければなりません。社員全員が顧客の問題を発見し考える力を養うことができるよう、ネスレ日本では「イノベーションアワード」とよばれる社内コンテストを毎年実施しています。社員全員が、自分の顧客は誰か、顧客が抱える問題は何かについて考え、問題を解決するためのアイデア、そしてそれを実行した結果を応募します。

コンプライアンス

ネスレは「ネスレの経営に関する諸原則」および「ネスレ考働規範」に基づき、世界中で事業を行っています。2020年には全マネジャー向けにリーダーシップに関するオンライン研修を実施しました。
また、すべての社外ステークホルダーの皆さまから、ネスレのコンプライアンスに反する可能性がある案件について連絡していただく専用システム「Speak Up - お聞かせください」を企業サイト上に設けています。



ネスレ企業サイト Speak Up - お聞かせください
https://www.nestle.co.jp/aboutus/principles/report-your-concerns

製品パッケージの改善

ネスレは包装材料を2025年までに100%リサイクル(再生利用)もしくはリユース(再使用)可能にするというコミットメントを発表しました。日本においても「ネスカフェ」や「キットカット」等の製品パッケージの改善に取り組んでいます。
2019年から始めた「キットカット」大袋製品の外袋素材をプラスチックから紙に変更する取り組みは、2020年にはほぼすべての「キットカット」大袋製品へと拡大、取り組み開始以来累積420トン(2020年末時点)のプラスチックを削減しました。
2020年10月、この「キットカット」大袋タイプ製品の外袋を紙パッケージ化する取り組みにより、公益社団法人日本包装技術協会が主催する「第44回木下賞 包装技術賞」を受賞しました。

また、「ネスカフェ エコ&システムパック」では、2008年の発売以降、継続的にパッケージ素材の改良に取り組んでいます。

さらに2021年1月には、ネスレ ヘルスサイエンス「アイソカル」製品のストローの材質を業界で初めてプラスチックから紙に変更しました。紙ストロー採用により、年間5.5トンのプラスチック削減効果を見込んでいます。

Nestlé HealthScience®

サーキュラーエコノミー構築に向けて

廃棄物の削減を目指して、サーキュラーエコノミーの構築に向けた取り組みを進めています。2020年3月、神戸市と共同でプラスチックごみ削減を啓発するため、対象のネスレ商品の空きパッケージ回収にご協力いただいた方へ、KOBEエコアクション応援アプリ「イイことぐるぐる」でポイントを付与する全国初の試みを神戸市内のイオンとダイエー、計2店舗で実施しました。

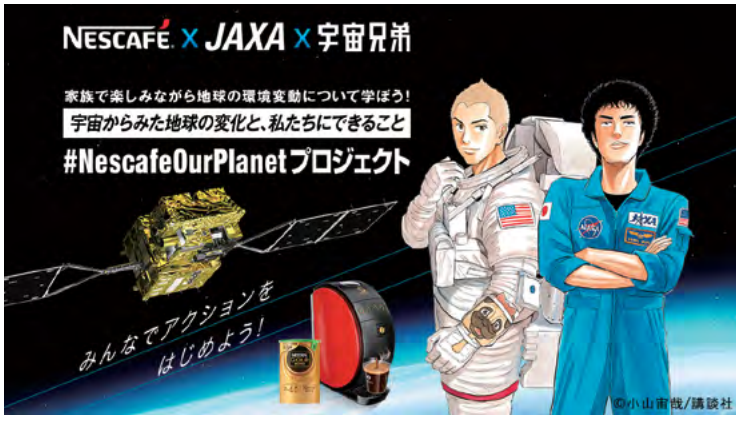
ネスレ製品パッケージの店頭回収ボックス

2020年8月には、ネスレネスプレッソによる使用済みネスプレッソカプセルの店頭回収を開始し、カプセルの主要素材であるアルミとコーヒーかすのリサイクルに取り組んでいます。

また、「nesQino(ネスキーノ)」でも、製品の使用済みサッシェ(袋)の回収を進めています。

行動変革を推進する

廃棄物のない未来の形成には、私たち一人ひとりの意識を変えることが必要と考えています。#NescafeOurPlanetプロジェクトでは、JAXAとのコラボレーションで地球環境を考える共同プロジェクトを開始しました。
また、「キットカット」の外袋パッケージの紙化をきっかけに、Youtubeで環境について啓発する動画プロジェクト#キットずっとプロジェクトも実施しています。加えて、2020年には各地の小中高等学校等を対象に、プラスチックごみ問題を考える授業を実施しました。



物流の効率化

ネスレ日本は、トラック輸送と比較して環境負荷が少ないモーダルシフト（大量輸送できる鉄道輸送と海運輸送への転換）を推進しています。地球温暖化の原因の1つとされる二酸化炭素の排出量において、鉄道輸送はトラック輸送の約13分の1、また、船舶輸送は約6分の1とされています。
2020年にはJR貨物および全国通運との共同プロジェクトとして、新潟県からの米の物流に使用する空コンテナを有効利用した新たな取り組みを開始しました。従来は米の収穫時期に合わせて空のコンテナを新潟貨物ターミナル駅に手配していたところ、空コンテナにネスレ製品を積み込んで新潟貨物ターミナル駅に輸送することで、効率的な物流網を構築することが実現できました。
この取り組みにより、トラックによる物流と比較して年間21トン（2020年）のCO_2を削減しました。

国内3工場で焼却・埋立廃棄物ゼロ

2016年、国内の全3工場が焼却・埋立廃棄物ゼロを初めて達成、現在も継続しています。島田工場（静岡県）と姫路工場（兵庫県）では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。また、島田工場は、2010年から、製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動も続けています。「キットカット」を製造する霞ヶ浦工場（茨城県）は食品残さの全量飼料化に取り組んでおり、包装工程後に、チョコレートと包装材料を分離する機械を導入、分別と資源活用を効率化しています。

姫路工場：コーヒーかす熱エネルギー回収システム